

3. 人材育成・組織力強化

研修施設の整備の取組

事業体	研修施設	概要
八戸圏域 水道企業団	水道技術研修 センター	平成23年度に、配管技術などを実技を通じて習得することを目的に開設。企業団職員の技術継承だけでなく、青森県南、岩手県北の22事業体で構成する北奥羽地区水道事業協議会の会員や、指定工事業者の配管技能者を対象にした研修を実施し、業界や周辺地域の技術力向上も視野に入れている。
東京都水道局	研修・開発 センター	従来のOJTによる指導に加えて、実践的なトレーニングを集中的に行うことにより、安定給水を支えていく現場管理に必要な業務ノウハウや技術の継承に取り組みため、平成17年に研修・開発センターを設置。
横浜市水道局	管路研修施設	平成21年度に、西谷浄水場内に「管路研修施設」をリニューアルオープンし、座学だけでなく実技と一体的な運用を行える研修体制を確立している。また、横浜ウォーター（株）と連携し、水道業界の技術力向上にも取り組んでいる。 ※「管路研修施設は」有料で施設のみの貸し出しを実施している。
新潟市水道局	水道研修 センター	平成22年度に、最大で100人規模の座学が可能な研修施設と管の接合など配管技術を実地に研修できる実技室を併せ持つ技術継承・人材育成の拠点を開設。
名古屋市 上下水道局	技術教育 センター	昭和59年に新人技術職員の育成を目的にオープンしたが、現在では局の職員に限らず、幅広い技術教育を実施。
大阪市水道局	体験型研修 センター	体験型研修センターは、水道事業共通の課題である、水需要が激減する中、大幅な人員削減を行いつつ、業務の質を確保し、技術継承を可能にするために整備した研修施設です。取水から給水に至る水道のトータルな運営ノウハウを、体験しながら習得することができる施設として、講義型研修を行うためのセミナー棟と実習を行うための配水、給水、浄水、機械電気棟の5つの棟で構成されています。また、国内外の水道事業体職員の研修の場としても活用することで、公域的な研修拠点としての役割も担っています。
広島市水道局	水道技術研修 センター	平成14年度に水道技術研修センターを開設し、体験型技術研修の充実を図り、災害時に迅速な対応を行うため、給水拠点となる場所での現場訓練や他都市との合同災害訓練等に取り組んでいる。
倉敷市水道局	水道技術 研修施設	平成18年度に片島浄水場敷地内に「水道技術研修施設」を整備し、団塊世代の大量退職時代を前に、技術力の継承と技術者育成を図るとともに、事務系職員であっても、濁水等の自然災害や事故等の発生時に簡単なバルブ操作が行えるよう研修に活用。
福岡市水道局	福岡市水道 技術研修所	「水道事業体職員の技術力、及び設計・施工の管理・監督能力向上」を目的に、本研修所で講義・実技両面にわたる研修を行っており、具体的には、福岡市水道局職員及び（公財）福岡市水道サービス公社職員の研修、日本水道協会で行われる「配水管工技能講習会」「配管設計講習会」の九州地方開催分を実施。

出典：各事業体のホームページ、全国水道研究発表会、新聞記事より